

学校名	佐賀市立諸富中学校			
1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力の向上については、授業スタイルの共通化やICT機器の利活用等を中心に取り組んだ。少しずつではあるが生徒の学習へ向かう態度に成果が表れてきている。ただ、学力の向上には結びついていない。来年度については、教科における基礎・基本の定着を図るとともに、主体的に学びに取り組み、他の生徒との共同・協働的な活動を発達段階に応じて、計画的に行っていきたい。</p> <p>・学年担当全員で実施した道徳教育や、全職員で情報共有し対応した生徒指導については、生徒や保護者による取組についてのアンケートの肯定的な回答が9割前後となっている。来年度も引き続き全職員による取組を推進したい。</p> <p>・教育相談の充実については、教育相談部会を中心とした全職員による対応とカウンセラーや支援員、外部機関とも連携を図るなど「チーム学校」として対応することができている。引き続き来年度も重点目標として取り組みたい。また、次年度も引き続き不登校対策に力を入れて取り組みたい。</p> <p>・「地域とのふれ合いが希薄である」という意見が、生徒・保護者から少なからず出ている。ただ諸富校区は、土曜日・日曜日・祝祭日を使った中学生対象の講座、屋外活動や地域行事が他校区と比べて多く、ボランティアを募集すると積極的に参加したいと申し出る生徒の割合は他校よりも多い。ただ参加しない生徒も多いのも事実である。生徒への広報活動だけではなく、保護者への啓発活動も行っていきたい。</p>			
2 学校教育目標	<p>夢をもち たくましく 挑戦する 生徒の育成 創り、つなぐ ～ 夢 絆 伝統 ～</p>			
3 本年度の重点目標	<p>① 地域とともにある学校づくり（コミュニティスクールによる学校・家庭・地域との連携・協働） ② 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現（確かな学力を身に付けさせるための授業改善） ③ 生徒指導、特別支援教育の充実（いじめや不登校の未然防止のための組織体制の整備）</p>			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目	重点取組		主な担当者	
	評価項目	取組内容		成果指標 (数値目標)
●学力の向上	○生徒が主体的に学習に取り組むために、基礎学力向上の推進と協働的な学習の基盤づくり。	○自学の内容を確認し、学び方に対するフィードバックを継続して行った学級100% ○生徒アンケートで、「家庭学習で覚えなおしや解きなおしを意識している」と回答した生徒80%以上	・生徒が家庭学習を「やったかどうか」だけでなく、「どのように学んだか」を意識できるようにするために、自学のレベルや学び方を教師が確認し、必要に応じてフィードバックを行う。 ・協働的な学習の基盤を作るために、諸富タイムをベースにした対話的な活動を授業内で増やす。	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業を通じて、心豊かに成長できている」について肯定的な回答をした生徒の割合80%以上	・生徒が人権や命の大切さなどを認識し、豊かな心を育むために全職員によるローテーション道徳授業や人権集会などを実施する。 ・学習の成果を共有する場として、文化発表会にて学年ごとの「生き方」の体験学習の発表を行う。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめ防止基本方針」に基づいて、対策に取り組んでいる」について肯定的な回答をした教師の割合95%以上	・月1回の生活アンケートや定期教育相談を活用し、いじめや問題行動の早期発見・早期解決に努める。 ・情報共有を図り、チームで対応を行う。	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●健康の大切さを理解し、食生活に気をつけるようにしていると肯定的に答えた生徒の割合90%以上	・望ましい食習慣と食の自己管理能力を育成するために、食に関する授業の実施や給食献立資料の活用、保健だよりの発行を行っていく。	
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・知識だけでなく判断力を育てるため、交通安全教室などを行い実践的な交通安全指導の充実。 ・自転車利用マナーの徹底する。ヘルメットの着用、並走・並進の危険性を具体的に指導し理由と結果を理解させる。 ・朝と放課後の登下校の指導を行う。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○体育活動や部活動を通して、体力の向上を図る。	○「体育活動や部活動に熱心に取り組む、体力が向上したと思う」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・実態把握のための体力テストの実施 ・体力の向上と体を動かすことの楽しさを伝えるために、部活動への加入の呼びかけや授業協力者を活用した専門的な指導を行っていく。	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・校務分掌間の連携や校内連絡掲示板等を活用した情報の共有を図り、業務効率化の取組を組織で実践する。 ・衛生・健康管理委員会を開催し、業務効率化の具体的な方策及び職員のタイムマネジメント意識向上を図る。	
●特別支援教育の充実	○全職員で対応する体制づくりと支援を要する生徒の指導や支援の方法の共有化	○「支援を要する生徒に対して配慮しながら指導し、情報共有することができた」について肯定的な回答をした教師の割合80%以上	・定期的に、特別支援学級担任の情報交換と支援の在り方を確認する会を実施する。 ・配慮が必要な生徒の情報共有と具体的な支援、対応等の共有を図っていく。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		主な担当者	
	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
	○機能する生徒指導体制の充実	○生徒指導部を中心とした提案や連絡体制による組織で動く生徒指導体制の確立	○「生徒の話に耳を傾け、学年や周りの職員と連携して、生徒の心配事に対応しようとしている」について肯定的な回答をした教師の割合95%以上	・職員研修を実施し職員のスキルアップを図り、問題行動の早期対応、未然防止に努める。 ・週1回の生徒指導部会で情報交換をし、指導体制の確認を行う。
○教育相談の充実	○生徒の変化の早期発見と全職員で対応する支援体制づくり	○「相談事があったとき、先生たちは、あなたの話を聞いてくれている」について肯定的に答えた生徒の割合80%以上	・生徒の変化の早期発見のため、毎月行うアンケート「自分と話そう」や定期教育相談を有効に活用する。 ・GR等を活用し、学年を超えた教師間の情報共有や、SCやSSW、サポート相談員との連携を確実に行う。 ・教育相談だよりを発行し生徒と保護者へ情報発信する。	
○地域と共にある学校づくりの推進	◎コミュニティスクールによる学校・家庭・地域の連携・協働の推進	◎「地域の方々とうれあう活動を積極的に行っている」について肯定的に答えた生徒、保護者の割合80%以上	・生徒の地域行事へのボランティア参加を促進する。 ・「えつ料理体験」や「夢づくり講演会」、「働く人から学ぶ」といった地域・保護者と連携した教育活動の充実を図る。	
5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p>			